がま研 かわら版

第 31 号
発　行
筑波山がまの油売り口上研究会

身近な所にミステリーゾーン

本年の「新緑の筑波路めぐりハイキング」は、がまの油売り口上講習会で皆様にもおなじみの小町の里コースでした。数々のハプニングも嬉しい、その行程や如何に。

東城寺 十二の経塚群

冨山　田津子

私は自分のことを今風にいえば歴女だと思っている。とくに古代史が好きなのです。遮光器土偶（宇宙人パイロットと似ている）や大湯にあるストーンサークルなどには、わくわくしてしまう。深く研究している方々には、ミーハーな考えで失礼なのだが、そのころに暮らしていた人々と宇宙人の交流におもいをはせると、どきどきしてしまうのである。（遮光器土偶が、宇宙人というのは単なる仮説）

今回、中世にも楽しみをみつけていただいた。郷土歴史家の井坂先生の軽妙、そして的を射た埋もれた史跡への思いを託した説明のおかげである。

特に経塚群には驚きました。東城寺の後ろの坂道を登るとそこに、おだやかな木漏れ日を浴びて経塚は、私たちを待っていてくれました。

日本三大経塚と謂われるわりには、「えっーここ?」というように無造作、良くいえば自然のままにあった。

その時から、十二基の経塚はわたしにとってミステリーゾーンともいうべき存在となった。経塚がつくられたのは、中世になってからだが、五十六億七千万年後をみすえて、お経を収めた人々が存在していたということ。お経の他に古代と同じように三種の神器のような副葬品があったこと。私の興味はこの副葬品に尽きる。

副葬品には、和鏡、かびん、つぼ、皿、椀，短刀，硝子小珠があったという。この中の、和鏡，短刀、硝子小珠三種の神器に当てはまるんじゃないかなんて空想をする。簡単に副葬品と片付けてはいけない。経塚を作った人は、その土地の実力者かもしれないが、これらの副葬品を作った人々がいたのです。銅山から銅を掘ってきた人。土をこね、つぼを焼いた人。鉄をたたいて刀を作った先人たちがいたこと。

山の重なったあたりから煙がたち、夕餉の支度をするそれぞれの一族がいる、はるかに昔のことだが、私はその当時の暮らしにおもいをはせる。

私の住む坂東市は、将門の里である。東城寺は、桓武天皇の勅願寺として建立された。桓武天皇五世が、将門である。縁を感じる小さな歴史の旅は、思いのほか楽しいものであった。

東城寺の経塚群

〈伝、広智上人像・東城寺蔵〉
鎌倉時代の彫刻と伝わる
地区の世話役の方々に遭遇し、祖師堂の中を見せてもらうことができました。

七十の手習い・弓道

佐　藤　貞　弘

念願かなって四十数年ぶりの挑戦“礼に始まり礼に終わる”

「プッ！」的を射抜くこの矢音に魅せられて弓道講座を受講しました。平成二十七年度の筑波大公開講座スポーツ教室・弓道（春季）に参加したのは、中学生を含む男女三十二名です。

私はやっと念願かなっての参加となりました。と申しますのは、平成二十三年秋の兄弟会で訪れた會津藩校**日新館**の屋内第二武道場（弓道体験の場）で四十二年振りに弓をひいたのですが、半分の射距離でしたがいい感じで矢が飛んでくれました。家に戻ってから「もう一度矢を射てみたい。」という気持ちが強くなり弓道講座を探したのですが、毎週土・日の八日間を休まず参加するためには中々日程が取れずにとうとう三年が経ってしまい、今年度ようやく実現したのです。（それでも、つくばね会を一回休みました。）

講義の内容は「弓道の初心者及びしばらく稽古を中断している経験者を対象として、それぞれの技術、体力、運動能力に応じて初歩の段階から系統立てて講義及び実技・実習により指導します。また、歴史、用具などに関しても講義します。」というものでしたので、私は稽古を中断している経験者として実技は出来ているから歴史、用具など座学中心に学びたいと思っていたのですがそれは大変な間違いでした。射法の一つ一つに自己流があり初心者より多くの指摘を受け、それを意識して直しながら射るためか矢が思うように飛んでくれないのです。（四十六年前、北海道では良く飛んで的に当たっていたのになあ～。）

昭和四十四年七月、二十四歳の私は北海道名寄・紋別・遠軽周辺の二万五千分一地形図作成のため、四名で三カ月間の長期出張に入りました。調査・測量地域が広範囲のため別れて宿をとり、それぞれの地域で人を雇って仕事をします。私はオホーツク海沿岸の湧別町役場職員の家に下宿することになりました。職員の方は役場弓道部（小笠原流）の部長で自宅に練習場をもっていたので、その日の夕食で早速弓道を勧められ秋祭りの大会出場を目指すことになりました。

翌日から練習です。時々基本的な教えを受けながら、下宿の巻わらと近くの神社射場での自主練習は天気や都合がつく限り、朝・夕食前の三カ月間続きました。その結果、秋まつりでは四本中三本的中の「プッ！」を体験したのです。（その後の人生ではテニスに熱中し弓道を忘れていました。）

講座最終日の後半には、射場二十八メートルの的を射る練習がありましたが、一本も当てることができませんでした。（これは単に当てたいという競技心しか無かったからかと思います。）

修了証書は頂きましたがこれでは全くの不完全燃焼です。現在は「桜一射会」に入会し、「射は、礼に始まって礼に終わる。」を心に、筑波大弓道場（日置流・へきりゅう）にて更に学んでいます。

日新館：會津松平藩の男子が十歳から文武を学んだ藩校、白虎隊もここで学ぶ。

歴史探訪会・忘年会のお知らせ

期日：11 月 28 日（土）～29 日（日）

行先：石岡市　八郷周辺
宿泊：国民宿舎　つくばね
会費：１０．０００　円
集合：フラワーパーク駐車場　13 時
宴会のみ参加の方は１７時までに入館願います。
＊ 詳細は案内の往復はがきでご確認ください。

少年野球とがま口上

刀をバットに持ち替えて・・・。バットを刀に持ち替えて・・・。

萩　原　義　夫

猛暑が続く七月、甲子園を目指しての各県の熱戦が続いています。

私が少年野球に関わるようになったのは、八年前、孫が小一になった時、息子から代わりにコーチの手伝いをして欲しいと言われてからです。土・日・祝祭日は野球があると言う事です。

公式戦は三年生からです。一年生、二年生と辛抱強く練習を続け、試合らしく出来るようになるのは三年生になってからです。小学校教育の中に野球はないのでお父さんお母さんとで運営し、面倒をみる事になります。

そんな苦労の上に暑い時も寒い時も練習して、試合が出来た時の感動は一入です。

四・五・六年生になると学年別リーグ戦など公式戦は多くなります。

「負けて泣くより、勝って泣け！」と言われますが、決勝戦に勝った時は本当に涙が出て来ます。何度か体験しました。

こんな野球漬けの生活ですので、がま研の方はすっかり足が遠くなりましたが、野球を休んでも古河の桃まつり、総会、忘年会やつくばね会の新年会等には出来るだけ参加しています。

野球の行業の中に「合宿」があります。四年生以上の子供達と父母で一泊の企画です。ある年、企画の方々に「がまの油の話をして子供達に見せてやりたい。」と相談しました。

合宿での夕食後、初めて子供達の前で「バットを刀に持ちかえて、私、萩原コーチがお届けします、がまの油・・・。」と演じました。

この時から合宿の楽しみの一つに定着したようで、以後続いています。

孫も上は中二、下は小四で兄は中学の野球部ですので、今は下の小四の方の担当になっています。子供の数が少なくなって部員が学年別にバラバラで、チーム運営が大変です。

今日から明日へと続く生活を目指して、「がまの油」と「少年野球」の二本柱に、「朝の見送り」と「ナンバーズプレイス」があります。「見送り」と「ナンプレ」については又の機会にします。

平成27年度

がま口上講座

開催日：　①　9月26日（土）
②10月10日（土）
③10月24日（土）
④11月　7日（土）
午前10時～正午

場　所：土浦市立『小町の館』
定　員：30名
受講料：無　料

ナンプレ見本　（目標タイム１０分）

縦・横・９個のマス、それぞれ１～9が入ります

1	4	3				2	9	7
			7		2			
7			1		9			6
2			9	8	3			5
	3	9				6	7	
	1	8		6		9	3	
8	6	4				1	2	9
		1	4	2	6	7		

高齢者叙勲(教育功労)

祝 瑞寶雙光章　叙勲

春雪や　ただ感無量　無量なり

渡邊由正氏が瑞寶雙光章を受勲

（平成二六年九月一日）

大谷国民学校を皮きりに白鳥西小学校校長を退職されるまでの四十年に渡る教育への功績を讃えられての栄えある受賞です。

研究会の最長老として、味のある口上で観客のみならず会員の誰をも魅了してやまない貴重な存在です。当会の輝き続ける星として、今後もお元気で活躍されることを願ってやみません。

（本人は固辞されましたが、何とか掲載の許可をいただきました。）

食用のがまの油がある？？？

我々が扱う「がまの油」は何にでもよ～く効くが、効能に滋養強壮を謳うことはない。しかしながら、この品をお土産に頂戴した時はビックリした。「**哈蟆油**の文字はがまの油だわなぁ？」と。

哈蟆油と同じく哈士蟆油（ハシマユ）は、「中国東北地方の林桂（カエル！）の卵管」で明清時代には上級宮廷献上品とされ、かの西太后も美容のために食していたそうな。ムコ多糖たっぷりの燕の巣と並ぶ高級美容食材で、某有名レシピサイトにも**「哈士蟆油とパパイヤの美容デザート」**として載っている。

頂いたものは１日２回、３～４錠を服用するというもの。疲労回復、栄養補給、老化予防、ホルモン調整…等々。つまり飲む**がまの油**なのかもしれない。飲む勇気が無いだけだ。

編集後記

連日記録塗り替えの今夏。それでも秋の気配を感じられるようになり、かわら版三十一号をお届けできる幸せに浸っています。

戦後七十年を迎え、『戦争を知らない子供たち』を歌った子等も還暦を過ぎました。平和な時代を継承する覚悟を再確認する、暑いこの夏を記憶にとどめたいと思います。幼き頃の思い出など、次号の原稿を募集しております。ホームページまたは左記への投稿も可能です。

編集子

原稿送付アドレス　tgod6474@i-next.ne.jp